

わが家の防災メモ

家族で避難先や緊急時の連絡先などについて話し合い、しっかり記入しておきましょう。

わが家の避難場所

家族がはなればなれになった時の集合場所

家族の連絡先

名前	生年月日	血液型	会社や学校の連絡先	携帯電話番号

いざというときの連絡先

消防 火事・救急 119 番 **海上保安 118 番** **警察 事故・事件 110 番**

名称	電話番号	名称	電話番号
泉南市役所	072-483-0001		
泉南消防署	072-485-0119		
泉南警察署	072-471-1234		

※空欄に家族で必要な連絡先を記入しておきましょう。

災害用伝言サービス

地震や洪水などの大規模災害発生時は、電話利用が急激に増加し、電話がつながりにくい状況が数日間続くことがあります。このような場合は、以下のサービスが開設されます。

災害用伝言ダイヤル 171

パソコンやスマートフォン等から、固定電話番号や携帯電話・PHS番号を入力して安否情報(伝言)の登録、確認を行います。



災害用伝言板(web171) <https://www.web171.jp/>

スマートフォン・携帯電話・PC等から災害用伝言板(web171)にアクセスし、テキストによる安否情報(伝言)の登録・確認を行うことができます。

※上記の他に携帯電話各社から「災害用伝言板サービス」が提供されます。利用方法については各社ホームページ等でご確認ください。

泉南市

災害に対しては日ごろからの備えが重要です。
あなた自身とあなたの大切な人を災害から
守るために、この冊子をご活用ください。

総合防災マップ

Sennan City Disaster Prevention Map 泉南综合防灾地图 센난시 종합 방재 맵



泉南市マスコットキャラクター
“せんくま”



保存版

目次

- 災害への備え 1~6
この冊子の活用方法/防災・減災の基本/自主防災組織/避難行動要支援者/避難情報と警戒レベル/情報伝達の経路/情報の入手先/避難所における感染症対策と分散避難/非常持ち出し品の準備/備蓄品
- 洪水・土砂災害 7~13
大雨や洪水に関する注意報・警報/河川の水位情報/雨の強さ・降り方と災害の危険性/内水氾濫と外水氾濫/避難の心得/水平避難と垂直避難/早期の立退き避難が必要な区域/避難行動を考えましょう/家屋の被害を抑える/家庭でできる簡易水防/局地的大雨(ゲリラ豪雨)から身を守るために/大雨・洪水時の地下施設の危険性/土砂災害の種類と前兆現象/土砂災害警戒情報
- 洪水・土砂災害ハザードマップ 14~26
- 地震・津波 27~30
地震・津波が起きたときとるべき行動/緊急地震速報を見聞きしたら.../屋内の安全対策/家屋の耐震化/大津波警報・津波警報・津波注意報/津波の発生と伝わり方/津波の特徴と避難時の心得
- 地震ハザードマップ 31・32
震度分布/建物倒壊危険度/液状化危険度
- 津波ハザードマップ 33~36
- 高潮 37~40
高潮災害とは/台風のコースと高潮の関係/台風のコースと大阪湾/過去に大阪湾で高潮災害をもたらした台風/高潮災害に備えて/気象庁が発表する高潮に関する気象情報/高潮氾濫発生情報/泉南市内の災害ごとの危険箇所
- 高潮ハザードマップ 41~46
- 避難場所・避難所一覧 47・48
- マイ・タイムライン 49・50
マイ・タイムラインを作成しましょう



この冊子の活用方法

泉南市では、住民の皆様防災に関する情報を提供し、事前の備えに役立てていただくことを目的に、「泉南市 総合防災マップ」を作成しました。

ハザードマップには、地震、津波、台風、大雨（洪水・高潮）などにより、被害にあう可能性のある地域を示す災害情報に加えて、避難場所、避難所、警察、消防などの防災関連施設を掲載しています。自宅・学校・職場などの周辺にどのような災害の危険性があるのか、また、最寄りの避難場所や避難経路の確認など、家庭や地域内での防災の取り組みにご活用ください。

ハザードマップの使い方

①自分の家の位置を確認してください

自分が住んでいる場所に、どのような災害の危険があるかを確認してください。

②避難場所を確認してください

自分の家から近い避難場所を確認しておきましょう。災害ごとに使用可能な避難場所が異なりますので注意しましょう。

③自主防災組織や地域の各種団体において、災害や避難について話し合ってください

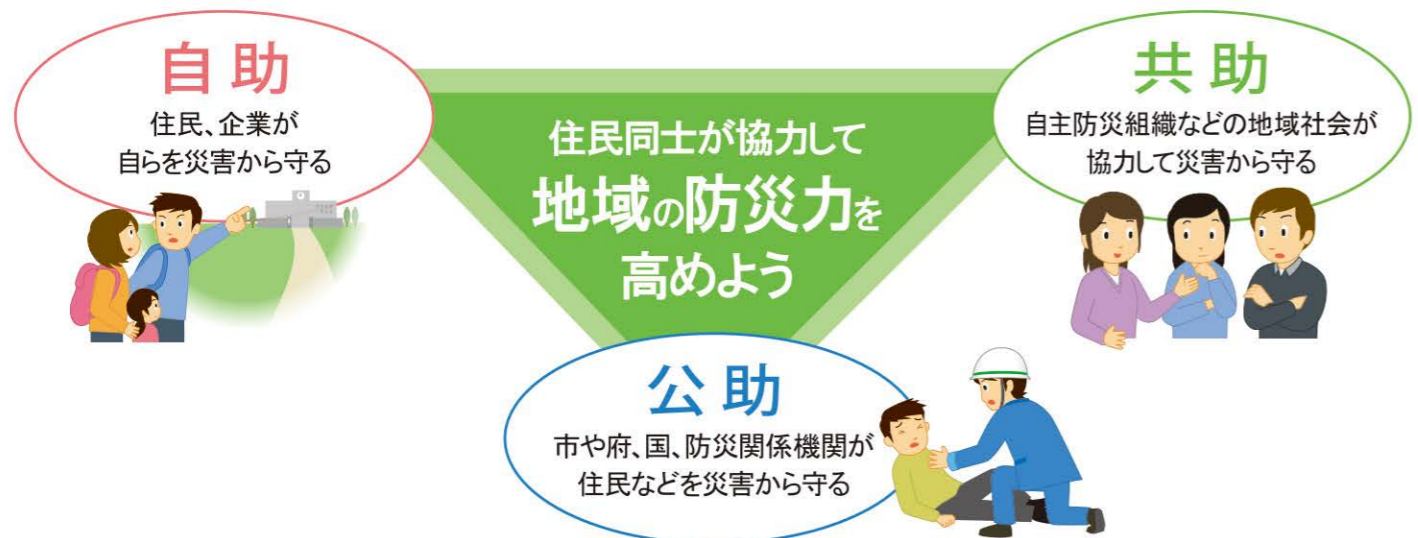
地域で防災について話し合い、地域特有の自然災害や災害時に危険な道路及び避難行動要支援者への対応などについて意見を出し合しましょう。

④避難経路を考えてみてください

実際に避難場所まで歩いてみて、安全で避難しやすい経路を確認しておきましょう。

防災・減災の基本

防災・減災のキーワードとして、「自助」「共助」「公助」という言葉が良く使われます。自助とは、いざというとき自分や家族の命と財産を守るために、住民、企業が自ら備えることです。共助とは、地域社会の被害を減らすために地域が協力して助け合うことです。公助は、行政が担う総合的な防災対策などを指しています。災害の発生を防ぐことはできませんが、これらの自助、共助、公助が連携し、効果的に機能すれば、被害を減らすことは可能です。



自主防災組織

地域住民が協力・連携し、災害から「自分たちの地域は自分たちで守る」ために結成される組織が“自主防災組織”です。日頃から防災に関する様々な取り組みを行うとともに、災害時には被害を最小限に食い止めるための活動を行います。各地域で組織づくりに取り組みましょう。

平常時の活動例

- **防災知識の普及**
防災講演会の開催、防災チラシの発行など。
- **地域の災害危険箇所等の把握**
災害危険箇所・防災上有効な施設の把握、地域防災マップの作成など。
- **防災訓練**
情報伝達・避難、避難所開設・運営、初期消火、応急手当、給食・給水訓練など。
- **防災資機材の整備**
防災活動で必要となる資機材の整備や確認など。
- **避難行動要支援者への支援**
高齢者、障害者など災害時に支援を要する方の事前把握・支援計画の作成。
- **防災に関する地域のコミュニケーション**
日頃からの声かけ、要配慮者への支援体制の確立。

災害時の活動例

- **初期消火活動**
地震の時の出火防止、火災が拡大するまでの初期消火、消防隊が到着するまでの延焼拡大防止。
- **避難誘導**
安全な避難経路による住民の避難誘導。
※避難行動要支援者（高齢者、障害者などの支援を要する方）を優先。
- **救出・救援活動**
負傷者の救出や応急手当の実施、重傷者の病院搬送。
- **避難行動要支援者への支援**
避難行動要支援者への情報提供・避難支援。
- **情報収集・伝達活動**
防災関係機関・地域内の情報収集・伝達。
- **給食・給水活動など**
避難場所での食料・飲料水、救援物資の配給、炊出し。

避難行動要支援者

高齢者、障害者、乳幼児等の特に配慮を要する方（要配慮者）のうち、災害発生時に自ら避難することが困難で支援が必要な方を、避難行動要支援者といいます。

避難が必要となった場合は、地域で協力しあいながら、近所の高齢者、障害のある方などの安否確認、避難場所への移動を支援しましょう。

高齢者・病人

- おぶって安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。



目の不自由な方

- 声をかけ情報を伝える。
- 誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持つてもらい、半歩手前をゆっくり歩く。



肢体の不自由な方(車椅子)

- 階段では2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- 介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おぶって避難する。



耳の不自由な方

- 話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。



避難情報と警戒レベル

災害の発生する危険度に応じて、5段階の「警戒レベル」を付して、3段階の「避難情報」と「住民等がとるべき行動」をお知らせします。普段から、避難情報や、とるべき行動について確認し、発令・発表された場合は適切な行動をとってください。

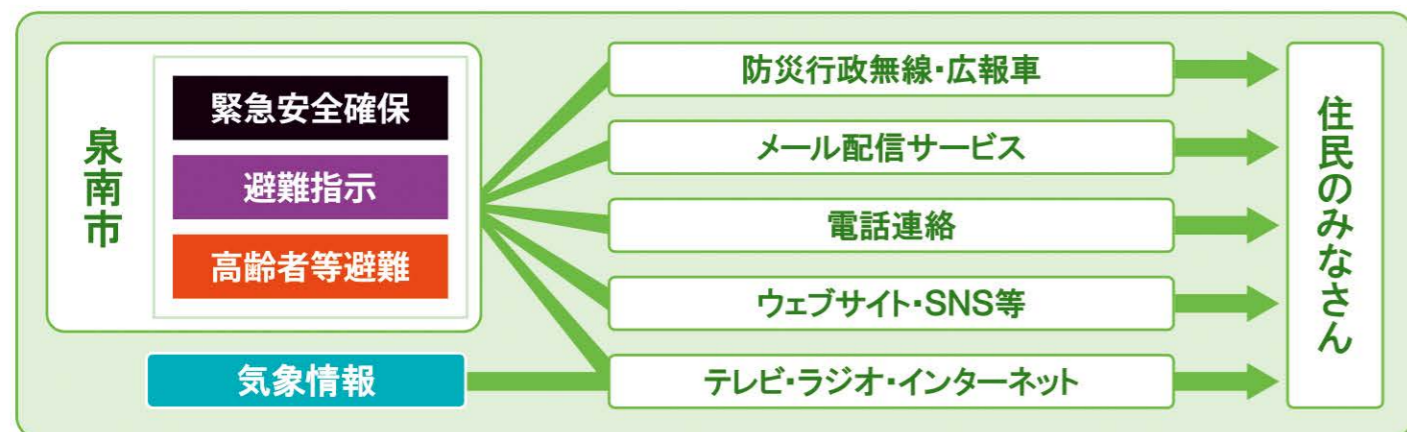
警戒レベル (5段階)	避難情報 (3段階)	とるべき行動
5	緊急安全確保 (泉南市が発令)	すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。直ちに身の安全を確保してください。
〈警戒レベル4までに必ず避難!〉		
4	避難指示 (泉南市が発令)	速やかに危険な場所から全員避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。
3	高齢者等避難 (泉南市が発令)	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。
2	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁が発表)	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。
1	早期注意情報 (気象庁が発表)	災害への心構えを高めましょう。

警戒レベル5緊急安全確保は、災害発生または、すでに安全な避難ができず命が危険な状態です。**警戒レベル5**の発令を待ってはいけません!

警戒レベル4避難指示で、危険な場所から全員避難しましょう。

警戒レベル3高齢者等避難で、避難に時間のかかる高齢者や障害のある人は、危険な場所から避難しましょう。

情報伝達の経路



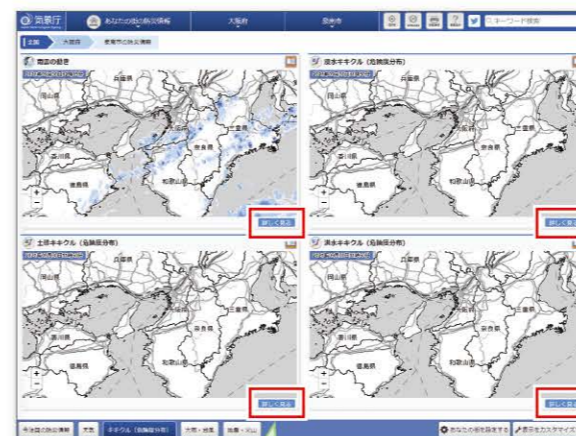
情報の入手先

情報を収集して危険だと感じたときには、避難情報が発令されていなくても自主的に避難してください。

●気象庁 あなたの街の防災情報(キキクル)

▶泉南市の雨雲の動きや、洪水・浸水・土砂災害の危険度分布など
https://www.jma.go.jp/bosai/#pattern=rain_level

●泉南市の防災情報
https://www.jma.go.jp/bosai/#area_type=class20s&area_code=2722800&pattern=rain_level



右下の「詳しく見る」をクリックすると、詳細を見ることができます。



●国土交通省【川の防災情報】

川の防災情報
<https://www.river.go.jp/index>

泉南市を検索し地図を表示して、河川の様子や水位情報、雨量情報を見ることができます。



●泉南市ホームページ
<http://www.city.sennan.lg.jp/>

●おおさか防災ネット
<http://www.osaka-bousai.net/pref/index.html>

●気象庁
<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>

●大阪府土砂災害の防災情報
<http://www.osaka-bousai.net/sabou/Index.html>

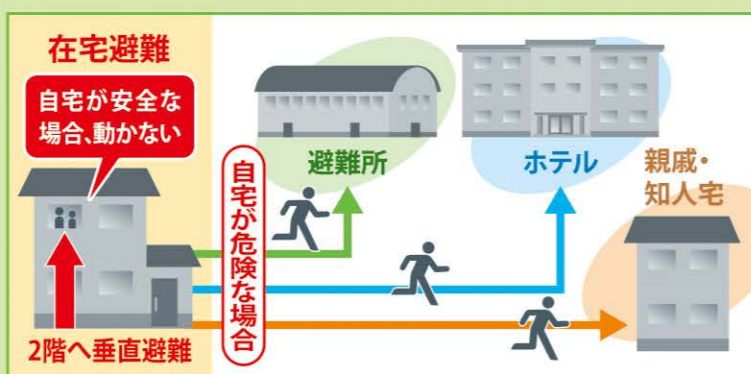
避難所における感染症対策と分散避難

感染症等がまん延する状況においても災害が発生した場合は、密を避けた避難が必要です。市が避難所を開設する際、各避難所では十分な換気や消毒液の設置のほか、避難者ごとに適切な間隔をとるなどの感染防止対策を講じます。一方、これらの感染防止対策をとることにより通常時より受け入れできるスペースに影響もあります。そこで、市民のみなさんも、避難先として避難所だけでなく、在宅避難や親戚や知人宅へ避難する分散避難について考えることや、避難する際にマスクや体温計などの持参を考えて、家庭での備蓄にご協力をお願いします。

市民のみなさんへのお願い

●分散避難について

自宅での安全確保が可能な人は、必ずしも避難所に行く必要はありません。感染リスク等を考慮して行動してください。また、安全な場所にある親戚・知人宅に避難することも、検討してください。



●避難所での感染防止対策について

マスク・消毒液・体温計の持参	手洗いや手指消毒とマスクの着用	三つの密に注意
<p>市の備蓄品には限りがあります。避難する際は、食料や水、日用品に加えて、マスク・消毒液(ウェットティッシュ)・体温計を、できるだけ自ら持参してください。</p>	<p>こまめな手洗いや手指消毒、マスクの着用や咳エチケットなどの基本的な感染対策をしましょう。</p>	<p>避難所内では十分な換気を行い、避難者間のスペースの確保を行います。避難者の方々による換気のご協力をお願いします。</p>

避難所の受け入れ体制

避難所における三つの密(密閉空間・密集場所・密接場面)を回避し、可能な限り感染リスクが軽減できるよう必要となる対策や準備を進めます。

定期的な換気の実施	十分なスペースの確保
手洗い、手指消毒、マスクの着用、咳エチケットなどの基本的な感染対策の徹底	
避難者の健康状態の把握と管理	消毒液の設置(限りがあります)

非常持ち出し品の準備

いざというときに備えて、非常持ち出し品を準備しましょう。非常持ち出し品は、リュックサックなどにまとめて、いつでも持ち出せる場所に保管しておきましょう。



食料	救急・安全対策	貴重品
<input type="checkbox"/> 飲料水(1人1日3リットルを目安) <input type="checkbox"/> 非常食(缶詰、乾パン、レトルト食品など) <input type="checkbox"/> 携帯食(チョコレート、キャンディーなど) <input type="checkbox"/> 粉・液体ミルクと哺乳びん、離乳食 (赤ちゃんがいる場合)	<input type="checkbox"/> 常備薬(胃腸薬、かぜ薬など) <input type="checkbox"/> 包帯、ガーゼ、ばんそうこう <input type="checkbox"/> 傷薬、消毒薬 <input type="checkbox"/> 持病のある方の薬、お薬手帳 <input type="checkbox"/> ヘルメット、防災ずきん <input type="checkbox"/> ホイッスル	<input type="checkbox"/> 現金(小銭) <input type="checkbox"/> 預貯金通帳、印鑑 <input type="checkbox"/> クレジットカード類 <input type="checkbox"/> 健康保険証 <input type="checkbox"/> マイナンバーカード、免許証など (本人確認できるもの)
衣類など	日用品など	
<input type="checkbox"/> 衣類(厚手の物と薄手の物) <input type="checkbox"/> 下着類 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 手袋、軍手 <input type="checkbox"/> 毛布または寝袋 <input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> ポリ袋(ビニール袋) <input type="checkbox"/> 新聞紙 <input type="checkbox"/> ろうそく、ライター <input type="checkbox"/> ナイフ、缶切り <input type="checkbox"/> ティッシュペーパー <input type="checkbox"/> 懐中電灯(予備電池)	<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ(予備電池) <input type="checkbox"/> 携帯電話(充電器・バッテリー) <input type="checkbox"/> 筆記用具(油性マジック) <input type="checkbox"/> 洗面用具 <input type="checkbox"/> メガネ <input type="checkbox"/> マスク、手指用消毒液等
	<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ <input type="checkbox"/> 紙おむつ <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> 布製ガムテープ <input type="checkbox"/> ロープ <input type="checkbox"/> 地図(ハザードマップ)	

備蓄品

災害復旧までの数日間(7日間程度)自ら生活できるように準備しておきましょう。被害を受けにくく、非常時でも取り出しやすい場所に保管しておくといいでしょう。

食料	燃料・日用品など	
<input type="checkbox"/> 飲料水(1人1日3リットルを目安) <input type="checkbox"/> 米(缶詰やレトルトのご飯なども便利) <input type="checkbox"/> 缶詰や菓子類 <input type="checkbox"/> 粉・液体ミルク・離乳食	<input type="checkbox"/> カセットコンロ <input type="checkbox"/> 予備のガスボンベ <input type="checkbox"/> 毛布または寝袋 <input type="checkbox"/> ブルーシート	<input type="checkbox"/> なべ、割り箸 <input type="checkbox"/> 衣類 <input type="checkbox"/> 新聞紙 <input type="checkbox"/> 簡易・携帯トイレ <input type="checkbox"/> 布製ガムテープ <input type="checkbox"/> キッチン用ラップ <input type="checkbox"/> モバイルバッテリー <input type="checkbox"/> ポータブル発電機

「循環備蓄」を心がけましょう

備蓄食料・飲料水などは保存期限が切れる前に消費し、その分だけ新たに補充して常に一定量のストックがある状態を保つことを「循環備蓄」といいます。定期的に古い備蓄品から消費することで無駄を出さず、また、いざというときに保存期限切れで使えなくなることを防ぎます。

